

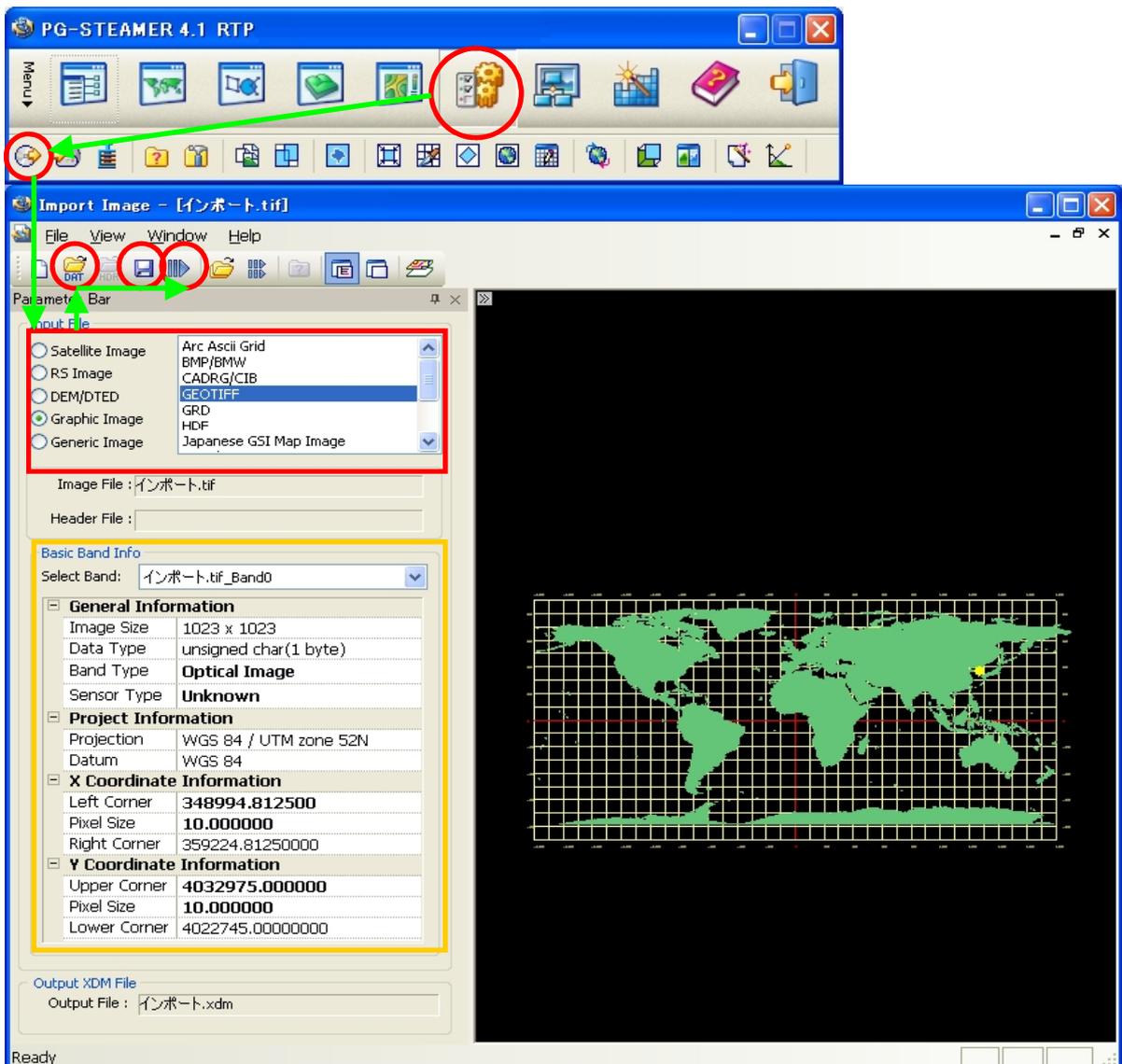


## ファイルの入出力・ヘッダ編集 “Tools and Utilities”の紹介:

PG-STEAMER専用フォーマットXDMへの変換や、投影法情報の書き換え、バンド統合など、ファイルやヘッダに関する編集をおこなうセクションです。PG-STEAMERの窓口的存在です。

### ファイルの入力:

PG-STEAMERで解析するすべての画像ファイルを専用フォーマットXDMに変換します。また、座標情報をもった画像ファイルを入力した場合、右ウインドウの世界地図上に点滅表示し、位置や範囲を確認することもできます。



- **Input File**欄で入力する画像ファイルの形式を指定し、 から対象データを開き、 から保存実行。
- ヘッダファイルが付随する画像ファイルの場合、 からヘッダファイルを入力します。
- ALOS CEOSフォーマットの場合、 から、フォルダ中の”LED”ファイルを選択します。
- ALOS GeoTiffフォーマットの場合、”Graphic Image”の”GeoTiff”の から開きます。

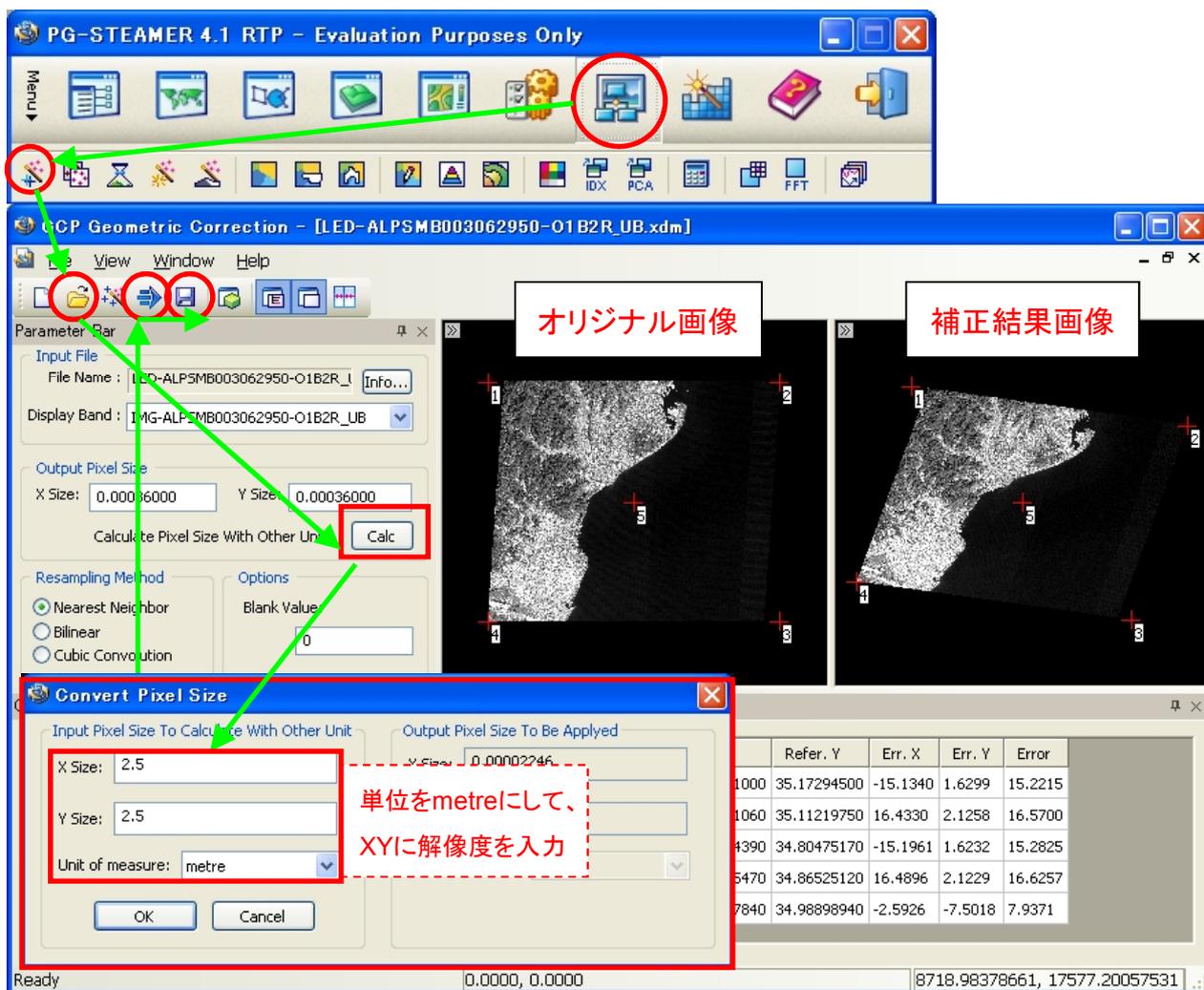
- ・必要な場合、Basic Band Info欄から、座標情報を手入力することもできます。
- ・複数の画像ファイルを一括変換する場合、代わりに  を利用します。ShiftキーやCtrlキーで、複数の画像ファイルを選択して実行してください。別々のフォルダに保存されていても実行できます。(国土地理院のDEMデータなどを一括変換するなどに便利。)

### ALOS(CEOSフォーマット)、GOSAT、COMS、ASTERを座標付きでインポートする場合

ALOSのCEOSフォーマットやGOSAT、COMS、ASTERの場合、上記手順でxdmフォーマット化しただけでは、座標情報が付加されません。引き続き簡単幾何補正をおこない、座標情報付きのxdmを作成します。

この簡単幾何補正は、上記インポート時に自動で付与された5点のGCPにより、ボタン一つでおこなえます。

\* ALOSのGeoTiffフォーマットの場合は、上記インポート時に座標は付加されます。同処理は不要です。



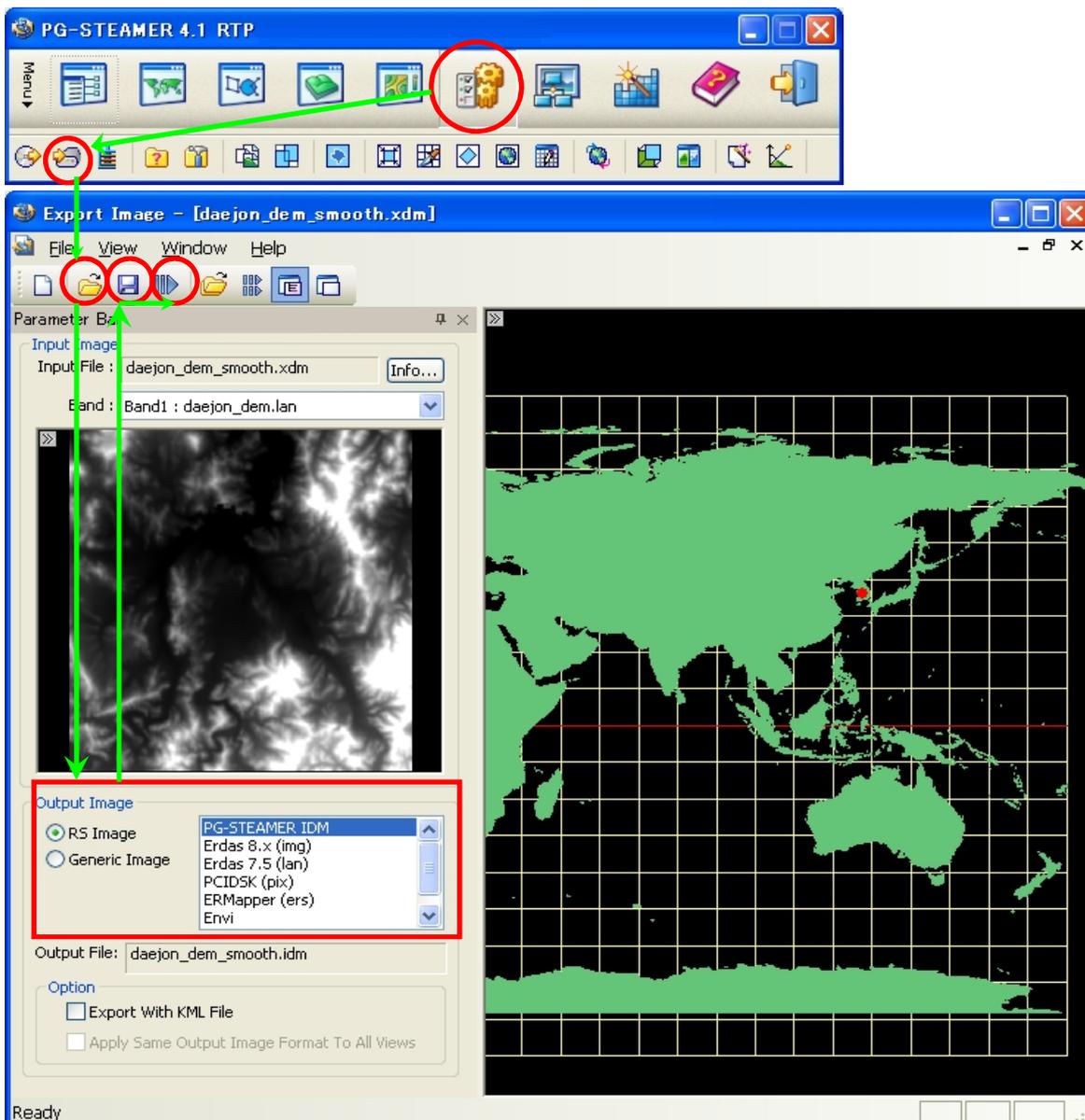
- ・事前にXDM化したファイルを開き、処理実行。別ファイルとして保存します。座標付き画像の完成です。

\* センサごとの入力すべき解像度(参考):

ALOS: PRISM:2.5m、AVNIR:10m / CMOS: 500m / ASTER: VNIR:15m、SWIR:30m、TIR:90m

・  **ファイルの出力:**

PG-STEAMERで編集・解析したXDMフォーマット画像をBMP、JPG、Tiff/GeoTiffなど一般的なフォーマットや、他ソフトのフォーマットに変換出力します。

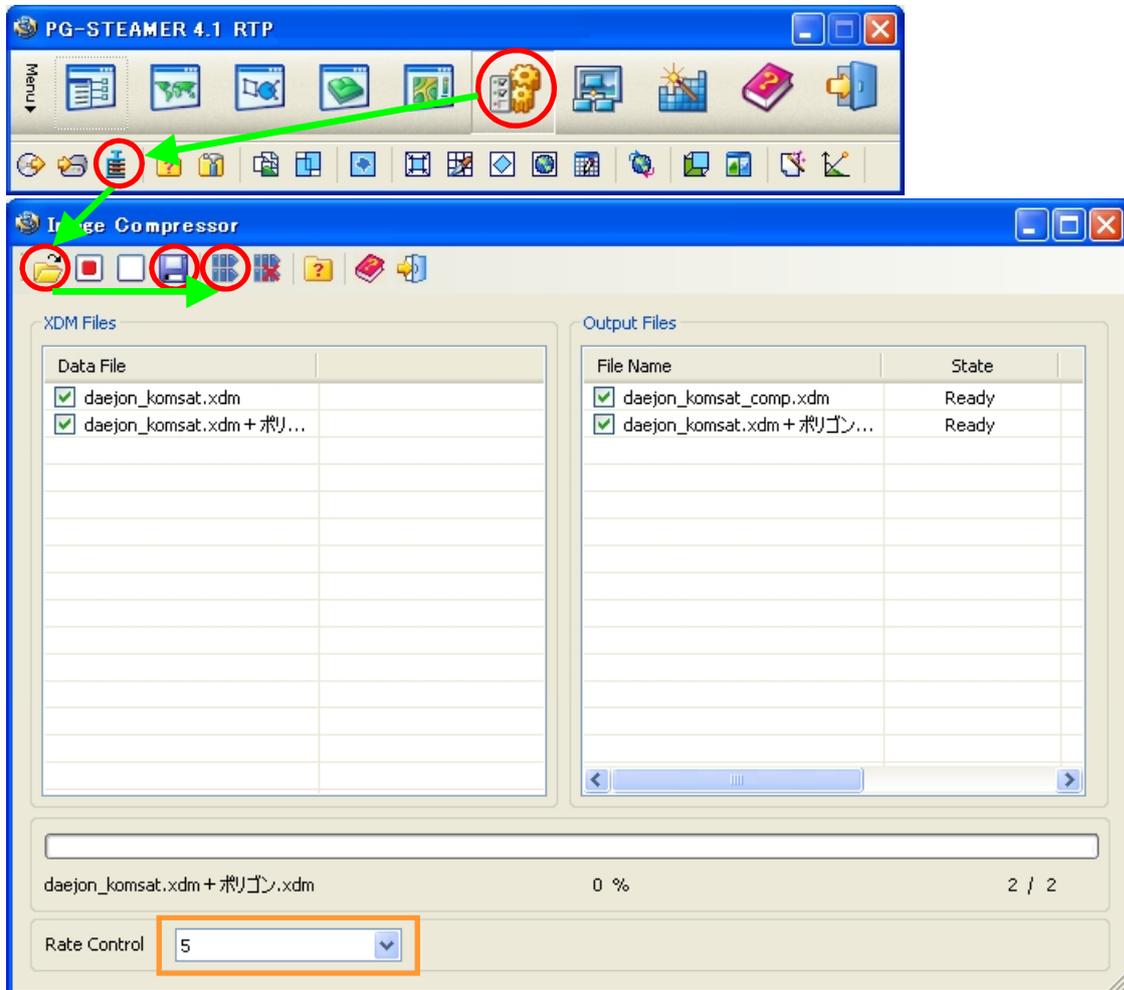


- ・ **Output Image**欄で変換出力するファイル形式を指定し、 からXDMファイル呼び出し、 で保存実行。
- ・ 複数のxdmファイルを一括変換する場合、代わりに  を利用します。ShiftキーやCtrlキーで、複数の画像ファイルを選択して実行してください。別々のフォルダに保存されていても実行できます。

・  **画像高圧縮:** (バージョン4.1新機能)

自由なパラメータ設定で、解像度を損なうことなく大幅なデータサイズ圧縮がおこなえます。

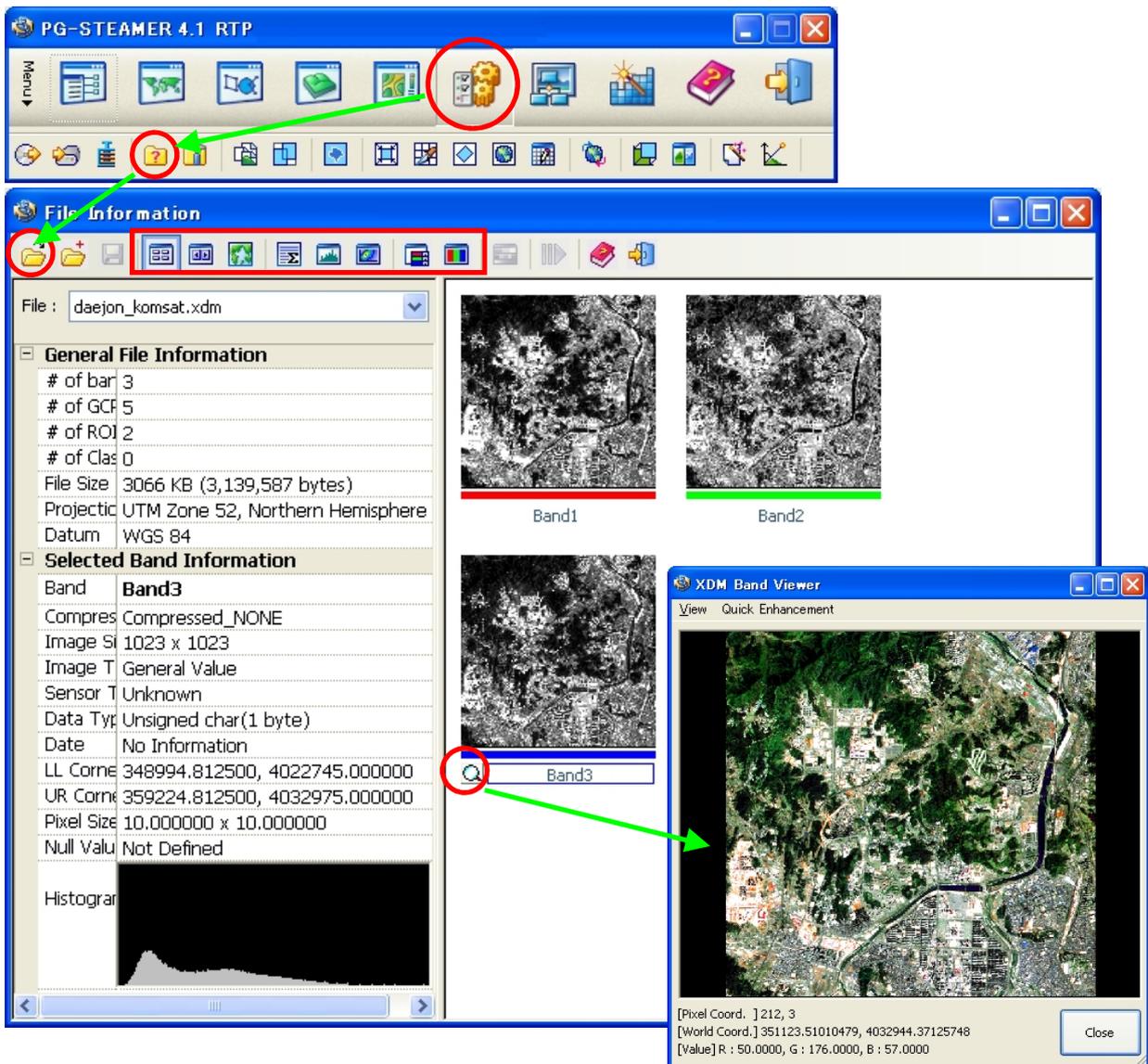
例えば、解像度1m・サイズ4GBの画像を解像度1m・サイズ2GBにし、ハードディスク容量の節約が可能です。



- ・  から、対象となる xdmファイルを呼び出します。(複数可) “XDM Files”欄に呼び出したファイル名がリストされます。圧縮しないファイルはチェックを外します。  は全チェック、 は全チェックを外す。
- ・ 必要な場合、“Rate Control”  枠内で、圧縮レベルを調整できます。  
“LossLess”はそのままの状態での圧縮、“9(Highest)”は圧縮を最大限に行いたい場合に用います。
- ・  で保存先を指定し、 で処理実行します。処理途中に  で処理をキャンセルできます。

-  **ファイル情報閲覧:**

投影法、解像度、地域、ヒストグラムなどを確認したり、簡易的に表示ができます。



- ・ 右側に表示された各バンドをクリックすると、左の表示情報が切り替わります。

-  で簡易的に画像表示できます。拡大縮小・ヒストグラムを変更するなどできます。

-  でRGB合成設定、 で合成結果の表示ができます。

-  で世界地図上での位置確認。 で統計計算。 でヒストグラム分布。 で相関図。